



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-70

(2025. 9. 18)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の法人預金残高

ポイント

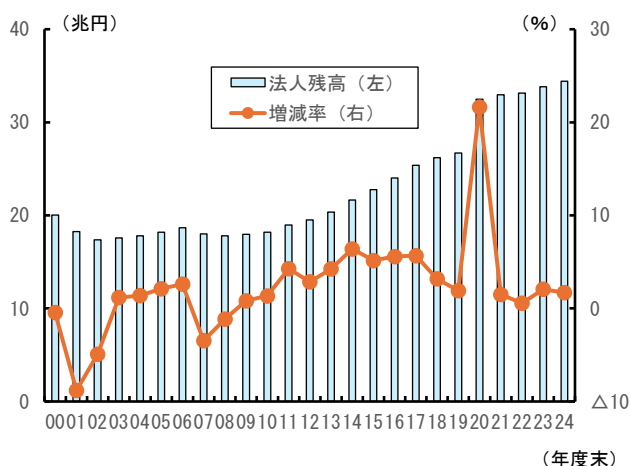
- 2024 年度末の信用金庫の法人預金（一般法人預金）残高は、前期比 1.6%、57 百億円増加の 34 兆 40 百億円となり、16 年連続で前年度末を上回った。
- 預金残高に占める法人預金残高の割合（法人預金比率）は、2010 年度末の 15.1%を直近の底に上昇しつつあり、2024 年度末には 21.2%となる。
- 2024 年度末の地区別の法人預金残高は、近畿、関東などの 6 地区で前期比増加し、南九州、四国などの 5 地区で前年度末を下回った。
- 2024 年度末の信用金庫別の法人預金比率（構成比）は、①15%未満が 13.3%、②15%以上 25%未満が 74.4%、③25%以上は 12.2%となった。

1. 全国状況

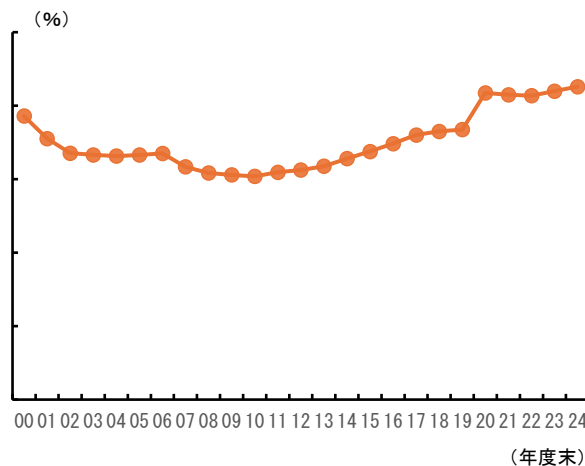
2024 年度末の信用金庫の法人預金（一般法人預金）残高は、前期比 1.6%、57 百億円増加の 34 兆 40 百億円となり、過去最高を更新した（図表 1）。法人取引の強化、個人預金の伸び悩みのカバーを目的に、法人預金の獲得を推進する信用金庫が増えており、年度末ベースでも 17 年連続で残高が増加している。

個人預金残高の増加もあり、預金残高に占める法人預金残高の割合（法人預金比率）は、2000 年度末の 19.3%から伸び悩んでいた。その後は上記の目的を背景に、2010 年度末の 15.1%から上昇方向に転じ 2024 年度末には 21.2%となった。引き続き法人預金を推進する動きもあり、緩やかながらも残高・比率は上昇すると予想される。

(図表 1) 法人預金残高の推移



(図表 2) 法人預金比率の推移



(備考) 1. 本稿では他業態との合併等を考慮しない。

2. 図表 1 から 4 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024 年度末の地区別の法人預金残高は、近畿（2.7%増）、関東（2.3%増）などの6 地区で前期比増加し、南九州（0.9%減）、四国（0.9%減）などの5 地区で前年度末を下回った（図表3）。また2024 年度末の法人預金比率は、最も高い東京の23.2%から最も低い四国の13.0%まで10 ポイント超の開きがみられる。なお、2000 年度末との比較では、四国がほぼ2 倍の増加幅となる。

（図表 3）地区別の法人預金残高

(単位：百億円、%)

地 区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		00年度末比 率	24年度末比 率	24年度末1金庫残高
						増減額	増減率			
北海道	225	206	362	370	368	143	63.3	21.1	21.6	18.4
東 北	138	115	232	230	228	89	64.8	17.4	19.1	8.4
東 京	774	675	1,294	1,306	1,325	551	71.1	19.9	23.2	57.6
関 東	647	610	1,090	1,148	1,175	527	81.3	16.2	19.5	23.9
北 陸	115	99	139	139	142	26	23.0	18.3	17.6	9.5
東 海	794	803	1,350	1,449	1,479	685	86.3	19.8	21.0	43.5
近 畿	916	776	1,408	1,486	1,526	610	66.6	22.0	22.8	52.6
中 国	177	159	275	283	284	106	60.3	17.8	21.0	14.2
四 国	42	41	78	84	84	41	96.8	12.0	13.0	8.4
九州北部	63	59	109	113	112	49	78.4	17.5	20.7	8.6
南九州	105	86	144	144	143	38	36.4	21.5	22.8	11.0
全 国	2,002	1,819	3,247	3,383	3,440	1,438	71.8	19.3	21.2	13.5

（備考）沖縄県は全国に含む。

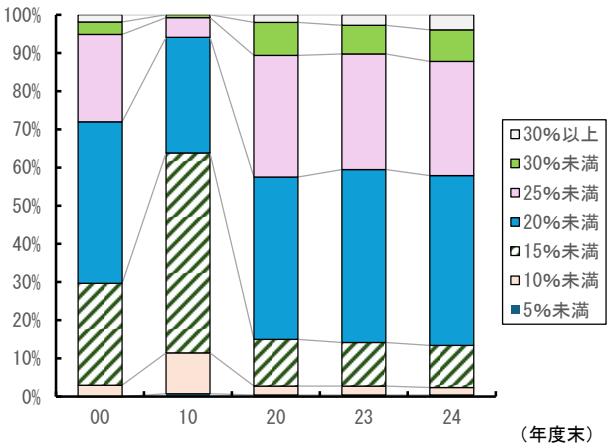
3. 信用金庫別の状況

2024 年度末の信用金庫別の法人預金比率（構成比）は、①15%未満が13.3%（34 金庫）、②15%以上25%未満が74.4%（189 金庫）、③25%以上は12.2%（31 金庫）となった（図表4）。

2024 年度末の平均は21.2%だったが、中央値に注目すると19.1%となる。また、比率が高い信用金庫として4 割台が1 金庫、逆に低い信用金庫として5 %未満は1 金庫あった。

2000 年度末と2024 年度末の構成比を比べると、15%未満が29.6%（110 金庫）から13.3%（34 金庫）に低下し、30%以上は1.8%（7 金庫）から3.9%（10 金庫）にやや上昇している。

（図表 4）信用金庫別の法人預金比率（構成比）



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。